

西田学園義務教育学校の現状

<義務教育学校としての取り組み>

- 5年生から教科担任制を導入
- 教育計画、学年の区切りを自由に設計（4-3-2の指導体制など）
- 5年生から定期テストを導入
- コースを選択して自学する時間の設定
- 生徒会活動への5年生からの参加
- 5年生から部活動へ体験入部

<地域連携型学校としての取り組み>

- コミュニティ・スクールとしての学校運営（学校運営協議会）
- 学習・生活両面にわたり、地域の方に協力をいただいている。

～1学期にご協力いただいた活動の主なもの～

登下校時の見守り活動、図書ボランティア、読み聞かせ、デコ屋敷絵付け等、梅学習、キノコ学習、いねの栽培、地域福祉施設体験、地域事業所における職業体験・など

<その他の特徴>

- A E Tの常駐による英語教育の充実
- 教室へのモニター設置、校舎内W i - F i整備などによるI C T環境の充実
- P T A組織、同窓会組織のシンプル化による全員が参画しやすい環境づくり
- 放課後児童クラブの新設（28名登録）
- スクールバスの運行（小2km、中4km以上の希望者）
- 通学区域の弾力的運用制度の導入（小規模特認校制度）→次年度入学生2名の申請

<成果>

- 義務教育学校のよさを生かし、より中学校に近い授業が展開され、小学部から中学部へのシームレスな学習のつながりが可能となった。
- 学校運営協議会の設置により、地域と学校の窓口として様々な情報の共有や相談の機会が得られた。
- 英語教育において、教員同士及びA E Tとの情報交換が活発に行われ、特に小学部における指導で将来への学習のつながりに生かされている。
- 教室配置のモニターやW i - F iの整備により、機器準備時間や手間が大幅に削減され、利用頻度が高い。

～1学期末アンケートより～

- ・ 1～9年生と一緒にいると学校が楽しい。（児童・生徒アンケートより）
- ・ 高学年児童の社会性が育まれる。（教職員アンケートより）
- ・ 年齢の違う相手への思いやりにより、豊かな心が育成されていると感じる。（教職員アンケートより）